令和８年８月２７日

福祉文教常任委員会所管事務調査報告書

別海町議会　議長　西　原　浩　様

福祉文教常任委員会　委員長　外　山　浩　司

福祉文教常任委員会における所管事務調査に係る福祉文教常任委員会協 議結果について、次のとおり報告します。

記

１　開催日時

（1）第 10 回常任委員会　　令和 8 年 8 月 26 日（水）

・10 時 00 分から 10 時 30 分　町立別海病院

・10 時 45 分から 11 時 55 分　教育委員会

・13 時 15 分から 14 時 10 分　福祉部

（2）第 10 回委員会協議会

令和 8 年 8 月 26 日　14 時 20 分から 15 時 00 分

２　開催場所

委員会室 2・3

３　出席委員　外山委員長、横田副委員長、中村委員、田村委員、貞宗委員、伊勢委員、吉田委員

４　欠席議員

無し

５　委員外　西原議長

６　調査事件及び協議結果

（１）町立別海病院

その他「尾岱沼・西春別駅前診療所の現状について」・・・調査終了

診療所の経営に関して、国から約 1700 万円の交付金措置されている。尾岱沼診療所と西春別駅前診療所とでは、規模や医師やスタッフ数が異なるのに交付額が同一である。算定基準方法について確認をしたい旨の意見が出された。

収支状況から医師等の給与比率が 73%に達していることが、経営赤字の要因になっているが医師不足の中、やむを得ない意見が出された。

西春別駅前診療所が、予約制に移行したことで、急患が別海病院へ回され

るケースが増えている。住民（特に高齢者や子育て世代）から不便だという声も出ている実態が出された。

西春別駅前診療所の先生が、週に一度別海病院へ通っている。内科医不足の中で、とてもありがたいことである。その時の、西春別駅前診療所の収入の計上方法について、どのようになっているのかの意見が出された。

（２）教育委員会

総合スポーツセンター施設及び社会体育施設の現状と課題について

・・・調査継続

築 30 年以上が経過し老朽化が進む体育施設について、維持管理費と費用対効果の観点から継続の是非を議論すべき時期に来ているのではないか。

行政改革の一環として、利用者一人あたりにかかるコスト（例：尾岱沼プール１回利用につき１万円の公費投入など）を具体的な数字を町民に提示し、今後の施設の在り方の理解を得ることも必要である意見が出された。

施設の維持のためには、使用料の値上げも考えられる意見も出された。

野球場電光掲示板について

今日の詳細な説明を受けて、掲示板の大きさやスクリーンの機能等について、理解・納得できたと言う意見が出された。

特別支援教育について・・・調査終了

特別支援が必要な児童生徒数が全体の約 4 割に達している。保護者の意識変化（支援を拒まない傾向）である。昔は、保護者の特別支援教育への理解が低く、抵抗感が多くあった。学校内での支援員増員については町側から前向きな答弁が出されていた。

別海町は、多町に比べ支援員が多く配置され教育委員会の前向きな姿勢がうかがわれる一方、更なる充実を求める意見が出された。

特別支援学級の児童生徒の、放課の受け入れ実態（児童館等）について、今後調査を行う意見が出された。

（３）福祉部

介護施設の人材確保に係る現状と課題について・・・調査継続

別海町の介護福祉人材の確保の事業は、他の業種と比較して充実している。

人材確保のため人は、給料の増額が必要になってくる。事業所では、正社員だと社会保険料を負担することになり、パート雇用を採用している。この

ことが、職員の離職につながっている意見が出された。

介護施設の人材不足解消のため、外国人労働者の受入れが必要だが、仲介業者に支払う斡旋料や旅費の負担が、民間事業者の経営を圧迫につながる。

町として、これらの経費への補助を検討の答弁が出されたことは、雇用確保につながる意見が出された

介護職員の給与実態について、全国平均と比較するだけでなく、別海町独自の具体的な数字（役場職員との比較など）を調査する必要性あるのではないかという意見が出された。

7　その他

9月１０日の調査事項

町立別海病院「医療制度の充実について」

保健生活部　「こども家庭センターの現状と課題について」

福祉部　　「特別支援学級に在籍する子どもの放課後の居場所について」